

# 釣れ釣れなるままに

2010年思い出の釣行記 PART. 3

# 真理の姿

## 鹿島釣狂

☆釣行日 平成22年6月13(土)14日(日)

☆入釣場所 支笏湖美笛・長流川・貫気別川

☆釣果 アメマス・ヤマメ

### 支笏湖の大雨魚尊

今回は溪流釣りとう温泉で心身を癒そうと大滝村(現在は伊達市)北湯沢名水亭に1泊する予定を組んだ。名水亭は我が子たちが幼少の頃、スキーを兼ねて宿泊したところで露天風呂の大きさに唖然とさせられた。あいにく本館は予約客が満杯で空き室がなく、やむなく第2名水亭に予約した。釣り場は、ヒメマス、ヤマメが解禁日を過ぎており、支笏湖、長流川に的を絞った。

早朝より釣り具の準備をしたのだが、岩見沢釣具センターで息子用の溪流竿と餌を購入して岩見沢を発ったのは午前10時になってしまった。栗山、千歳経由で支笏湖畔に向かう。昼食をとるために温泉街に入っていくと、駐車料金が1,000円となっていたので、思案しながらさらにその脇道を進むと、支笏湖第一ホテルの横の路肩に車1台止められる場所が空いていたので、第一ホテル内レストラン「草庵」で昼食とする。息子は鴨セイロ(更科そば)、私はざるそば(田舎そば)を注文したが、カツオと昆布の出汁が効いたつゆが絶品だった。



レストラン「草庵」の庭にある東屋で支笏湖の景観を楽しむ。湖面には何艘かのチップ釣りの小舟が浮かんでいた

昼食後、美笛に向かった。途中、姫鱒橋・虹鱒橋という名の釣り人が心をときめかしてしまう橋が架かっており、その路肩に数台の車が駐車してあった。おそらく釣り人の車であろう。支笏トンネル出口にも車が停めてあったので、その脇に車を並べ、崖を下っていった。案の定、先行者が岸から離れた岩に乗って釣りをしていた。岸边には林が迫っており、私たちに釣りが出来そうなスペースは見あたらなかった。

美笛川河口キャンプ場に向かった。「日帰り一人500円」の利用料金を払って進むと、家族でのキャンプテントが所狭しと張られていた。たいそうな賑わいだ。キャンプ場の右はずれの人気の無くなったところで磯竿を伸ばす。私は4.5mで近投する。息子は5.4mに遠投ウキを付けてカー杯竿を振る。小物のアメマスが釣れたが大物には縁がなかった。周辺のテントからバーベキューの香りが漂ってくる。これから夕まずめのよい時間帯だが、私たちも宿に向かうしかない。私たちの代わりに湖畔を目指して進む釣り人と挨拶を交わすが、まだ見ぬ大アメマスに後ろ髪を引かれる思いだった。



スチュエーションはすばらしいがアタリが出ない



湖面に大雨鱒の波紋が広がったが・・・



## 貫気別川の山女魚

寝酒用の飲み物とつまみを買いに大滝村の道の駅に立ち寄ったが、過去の賑わいはなく閑散としている。一時はトイレ前のピアノ演奏の物珍しさもあってか賑わっていたのに……。替わりに隣の「キノコ王国」にお客が入っていた。そこで寝酒用の日本酒、ビール、チーズを仕入れる。

午後6時に第二名水亭に着いた。カウンターで早朝の解錠をお願いしてから、温泉で体を解す。夕食はバイキングだった。ダイエット中の息子は、この時ばかりは食が進む。それでもいつもの三分の二だというからものすごい。ステーキを焼いているところで列んだが1枚ではなく3切れだったのにはがっかりした。息子も同じ思いだったというから似たもの親子というところか。午前3時半に床から出て、約束通り鍵を開けてもらい、名水亭のすぐ脇を流れる長流川に下りていく。「釣り新ほっかいどう」で「道央、道南などヤマベ解禁 遅い雪解け河川によって釣果に差」という記事が載っていた。更に、「つりしん記者の大胆予測」として平田克仁氏による週末釣り場特報では、その似顔絵が「シブ顔」で思案のしどころと予測している。記事は「4日午後4時頃、伊達市大滝区に入渓。川は増水で遡行もままならなかったが、約1kmを1時間半程かけて釣り上がり、15cm～18cmのヤマベを4、5匹キャッチ」と続いていた。

それを頼りに「名水亭」にしたのだ。ホテル前に架けられた橋の下は、急な流れが落ち込み、深さも申し分ない淵となっている。しかし、息子にカジカが4匹きただけに終わった。カジカがいるということは川が汚染されていないという証なのだが……。一時間ほ



どで下流に場所を移したが、全くアタリがない。先行者が1名いたのだが……。

朝風呂に入り、朝食もバイキングだったのでダイエット中の息子には気遣わずに腹一杯食べた。

ここまで来たのだからと、洞爺での家族キャンプで1度入渓したことのある貫気別川に向かってみる。洞爺湖を半周して国道230号線を進むと、見覚えのある橋があった。橋の下ですぐに山女魚2匹が出る。やっぱりヤマメはいい。息子と入れ替わりながら釣り上がると19匹の釣果となった。最大は息子の20cm強のヤマメだった。その魚体には私たちを癒す力が十分にあった。

## 岩見沢釣遊会第3回大会

☆開催日	平成22年6月27日			
☆開催場所	笛舞港～岬港			
☆入釣場所	東歌別			
☆釣果	アブラコ	455	mm	3
	カジカ	379	mm	2
	重量	446	0g	
☆成績	合計点数	1280	点	
	成績	3	位	



### 真理の姿

早朝、自宅前にある岩見沢市営球場から突然、我が母校の校歌が流れてきた。夏の甲子園を目指す、第92回全国高校野球選手権北海道大会の空知支部予選が岩見沢市営球場で開幕した。開会式に先立っての音声出力の調整らしい。メロディを口ずさむことは出来るのだが、これに続く歌詞が出てこない。

目を上げて、端手を望め 石狩の  
御代引き悠伽 影写し 雲は流れる  
我ら今ここに集いて 端と見る  
永遠の思いを込めて・・・

メロディを口ずさむことは出来るのだが、これに続く歌詞が出てこない。

自分はこの時代何を考えていたのだろうか。何を追い求めて生きていたのだろうか。ただ漫然と生きていたのではないだろうか。この高校球児たちは青春のまっただ中を泥まみれになって白球を追っている。私は今、大魚を求めて彷徨っている。

今年の春は寒い日が続きななか気温が上がらなかったが、最近になって空前の暑さが続いている。この時期としては130年ぶりとなる猛暑だという。6月26日、足寄町では37.1度を記録。ロシア沿岸地方付近に勢力の強い低気圧が停滞したことによってモンゴル地方の暖気が行き場を無くし、上空1500mの温度が30度以上に上昇したのだそうだ。その後、低気圧が勢力を弱めながら太平洋に抜けると、強力なモンゴル暖気が偏西風に乗って、道内に流れ込んだものらしい。あの冷涼な釧路でさえも30度を超したというからすさまじい。

サッカーワールドカップ南アフリカ大会では我が岡田ジャパンが1次リーグE組を2位で突破した。カメルーン戦を本田のシュートで撃破した日本は、オランダ戦に1-0で惜敗し、予選リーグ突破をかけたデンマーク戦では本田に続いて遠藤、岡崎のゴールで3-1と圧倒したのだ。釣り大会後の6月29日に組まれている決勝トーナメント1回戦のパラグアイ戦は熱い戦いになりそうだ。

私は今、野菜作りに精を出している。畑には魚のアラがたっぷりと入って肥料気は申し分ないのだが、8年ほどを全くの空き家にしていたため、雑草が伸び放題になっていたのだ。まずはタンポポ畑になっていた芝生をひっくり返し、その下で横に張り巡っているスギナの太い根っこを掘り出した。そこへ野菜の種やら苗を買ってきて植え付けたのである。トマト、なすび、枝豆、キュウリ、シシトウ、ピーマン、インゲン豆、虎豆、香草3種、男爵芋にメイクィーン、にんじん等々である。義父はニラを植えていった。女房の友だちからもらったタマネギの苗も植えてみる。

シャクヤク、インパチェンス、マリーゴールド、セキチク、ケイトウ、サルビア等の花の苗も植えた。ダリア、これも球根を女房がもってきたのだが、ようやく芽が出てきたところで、女房が伸びてきた雑草と一緒にかっちやいてしまった。

木蓮、ブルーベリー、ムクゲの木も植えてみる。要するに雑草退治のために隙間無く植えてみたのだ。なにか植えてあれば畑を掘り返して雑草も枯れていくだろうと思ったのである。

サクランボの木は子どもが小さいときから植えてあり、今は大木となっている。最初の頃こそは大事に摘んで楽しんだものだが、今ではいつも真っ黒になっては実を落とす。今年は特に毛虫がすごいようだ。昨年大量発生したマイマイ蛾の幼虫ではなからうか。ありんこもサクランボの実の汁を吸いに這い回っている。名前のよく分からない羽虫が熟しすぎたサクランボの実の周りを飛び交っている。冬になる前に木を切り倒してしまおう。

## どちらが太い

6月は太平洋に移って大会が開催される。日本海用から太平洋用に仕掛の変更をする。昆布根に届くようにとオモリを重くし、ハリスやハリの号数も一回り大きくする。エサにはアカハラとカツオだけを準備する。

26名の参加者を乗せたバスはエリモに向けて出発した。私が座席につくやいなや岩本氏が隣の助手席に座った。彼は私が昨年の大会で優勝した東歌別について行くというので、潮待ちしている間に狙う溝や潮が引いてから乗れる岩について図で示しながら説明した。

途中トイレタイムのためにコンビニに寄って夜空を仰ぐと月食の真っ最中だった。太陽



と月の間に地球が割って入るのだ。小便をしながら宇宙の神秘を観賞する。そう言えば今日は大潮である。魚が宇宙の異変を敏感に察知して私のエサに飛びついてくれればよいのだが・・・

結局東歌別では8名が下りた。私の知っている範囲で案内してから自分の狙いとしていた溝で竿を出す。

1時頃、カジカの30cmが近投であがった。続けてカジカ40cm級が来て早々と嫁候補ができた。しばらくアタリが途絶えたので付近の仲間の様子を伺いに行く。すると、阿部氏がカジカの大物を釣ったとバツカンを開けた。体格のよい阿部氏が持つと「俺の腹と遜色ないな。どちらが太い」となるようなお化けカジカが収まっていた。私は再度釣り場に戻り、何とか35cm級のアブラコとカジカが来て規

定の魚はそろった。

6時のサイレントとともに昆布取りの磯舟が目の前に集結したが、潮が引ききらないために目指す岩にはまだあがる事が出来ない。道具を片付け岩本氏と潮待ちしていると漁師があと1時間もすれば乗れるようになるだろうと教えて下さる。

すると、左方向で潮待ちしていた御仁が海の中をこいでいく。そして50m程先の岩にあれよあれよという間に渡りきってしまった。海底の様子をよほど熟知しているのだろう。





赤い服を着ている釣り人と一緒にいたのだがあれよあれよという間に先の岩に渡っていた

7時半に岩本氏と共によやく目指す岩にあがることが出来た。あと2時間の勝負である。私は3時方向に向かって竿を出す。正面のさらし付近に打っていた岩本氏の1投目にグングンとしたよいアタリが出て40cm強のアブラコを抜き上げた。今日はどれだけ釣れるのだろうかと期待がふくらむ。しかし、その後は二人とも音沙汰がない。上がり際に私に45cm強が来たところで店仕舞いすることになった。

### 審査結果

優勝	吉井 博	1450点 (アブラコ511mm+カジカ 325mm+6140g)	横 潤
準優勝	前野達志	1397点 (アブラコ438mm+カジカ 419mm+5400g)	歌 露
3位	鹿島釣狂	1280点 (アブラコ455mm+カジカ 379mm+4460g)	東 歌 別
4位	嵐 光博	1263点 (アブラコ405mm+カジカ 384mm+4740g)	西 東 洋
5位	西川紘一	1218点 (アブラコ433mm+カジカ 331mm+4540g)	坂 岸
身長優勝	阿部雅美	カジカ 52.5cm	東 歌 別

優勝は吉井氏で念願の横潤で50cm強のアブラコを大釣りしてきた。身長優勝はやはり阿部氏でカジカ52.5cmだった。校歌の最後の歌詞が思い浮かんだ。「我ら今ここに集いて 端と見る 永遠の思いを込めて 移らざる 真理の姿」





### 大会入賞者

前列左より 身長優勝：阿部、優勝：吉井、準優勝：前野

後列左より 3位：鹿島、4位：嵐、5位：西川

### 追記

平成24年2月5日付けの北海道新聞に「校歌アルバム」101滝川高 と記事に載った。冒頭に記した歌詞とは違っていた。正しくは下記である。

#### 滝川高校校歌

作詞 風巻 景次郎

作曲 長谷川 良夫

1

眼を上げて 涯際<sup>はたて</sup>を望め

石狩の 水脈<sup>み</sup>引きはるか

影うつし 雲は流れる

われ等いまここに集いて

ひたと見る

永遠の懐おもいを秘めて

うつらざる真理の姿

2

窓ひらき遠く望めば

空にみつ風爽やかに

山脈の起き伏し青し

われ等いまここに集いて

生命いのちなり

健やかな歌をうたえば

花さくや梢もさやぐ

3

雪深き国のまほろば

白銀の野辺は耀かがよい

若々し学び舎たてり

われ等いまここに集いて

誇あり

正しくぞ共に進めば

かがやきのいやます栄え